

売薬の意匠あれこれ 〈その10〉 猪口

北多摩薬剤師会会長・立川市薬剤師会会長代行 平井 有 (ひらい・たもつ)

今号は日本酒を飲む際の器「ちょこ(猪口)」を紹介します。漆器や金属、ガラス製のものもありますが、多くは磁器や陶器で作られました。特に磁器の代表九谷焼の猪口は薄くても丈夫で軽く、細かな文字や鮮やかな彩色の図柄を施すことができることから、富山や奈良の売薬行商の手土産や街の薬局の販促品や景品などにも使われました。

【金太郎】九谷焼 直径50mm

馬に跨る金太郎の商標に「風にトンブク いやでもなおる」と強引なキャッチコピーが書かれています。童謡によりますと金太郎は熊に跨って馬の稽古をしたようなので、これは修練成就し馬に乗れるようになった金太郎の図柄というわけです。昔は馬がデザインされた薬の商標やパッケージは多く、これは自動車が発明されるまで馬は地上最速の乗物であり、薬の速攻(即効)性を意味しています。



今では健康産業であるべき医薬品業界で、薬の販促品に「猪口」を配ることは、薬用酒の景品としてもまず考えられません。昔は小さな面積に意匠を凝らした「猪口」が販促品や景品として使われていました。このような酒器が薬の販促品に用いられた時代の「猪口」をご覧ください。

【達磨】九谷焼 直径55mm

達磨が20分を指した時計を持つ絵の描かれた猪口です。達磨は民芸品の起き上がり小法師(おきあがりこぼし・おきあがりこぼし)のように寝ても直ぐに起きる(=治る)ので売薬、特に置き薬の図柄に良く使われました。この猪口には「熱トリの母」「ねても二十分で起きる 高貴薬」と書かれています。20分で治るとは思えませんが、20分で効き目(解熱作用)が現れると解釈すれば薬理的にもうなずけます。



【布袋】九谷焼 直径55mm

油断をするとすぐ過食気味になる現代では、お腹の出た太鼓腹の体形は不健康の象徴ですが、七福神の一人である太った福耳の布袋様は、広い度量や円満な人格、富貴繁栄の象徴として民衆の信仰の対象となりました。さらには現代ほど食生活の豊かでなかった時代では、裕福で栄養が満ち足りて、胃腸が丈夫で健康であることを示すキャラクターとして多くの胃薬の図柄に登場し、このお猪口もその一つです。



【馬】九谷焼 直径54mm

滋賀県近江の配置売薬メーカーの景品です。跳ねる二頭の馬に@の商標と「驚いた薬も是れ丈けけば安心だ(驚いた薬もこれだけ効けば安心だ)」とのキャッチコピーが書かれています。

【学生】九谷焼 直径57mm

四角の学生帽(角帽)にゲートルを巻いた大学生が地球儀に跨り日の丸をかざした絵が描かれています。当時、大学生は選ばれたエリートでしたが、太平洋戦争が激しくなると大学でも軍事教練が行われ学徒動員の足音が聞こえるような時勢の流れを感じさせる保生館老薬房の猪口です。



【鍾馗】九谷焼 直径55mm

外に「近江シヨキ本舗大原盛大 堂」、内に「シヨキカゼー」と書かれています。シヨキとは鍾馗のことで、中国民間伝承の道教の神様です。日本では魔除けの神様として崇められ、端午の節句に飾られました。痘瘡除けはじめ様々な熱病を退治してくれる神様としても祭られました。



【五分間】九谷焼 直径56mm

何とも不思議な格好の少年が大きな時計を首からかけています。時計の針は12時5分を指しており、「五分間」と書かれた旗も持っています。これは奈良の置き薬メーカー、五分間大薬房のトレードマークで、効き目が5分で現れる(即効性)ことを表しています。



【@】九谷焼 直径56mm

末広りの八の字の@印の薬屋さんの景品です。「一滴の酒 百薬の長 一粒の薬 命の親」と書かれています。お酒と薬が効き目を争っているようなキャッチコピーですが、薬の景品として配る猪口ですから@印の薬をのんでお酒も飲めば相乗効果が期待できる、あるいはお酒と同じくらいの効き目があるという意味かもしれません。